

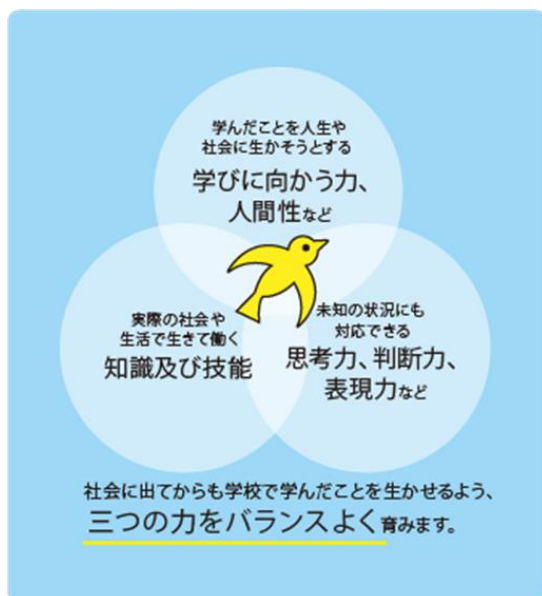
すももの郷通信Ⅱ

落合小
学校通信
No. 8
2023,7,11
発行 宮崎

昨年度から、『まみち』（通知表）が変わりました！～大切なことなので、今一度！～
令和2年度から、（*）新学習指導要領が全面実施となりました。この新学習指導要領では、これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し行動しそして、それぞれが思い描く幸せを実現してほしいという願いのもとに作成されています。そのために、これからの新しい時代を生きぬく子どもたちに必要な力を次の3観点に整理し、バランスよく育むことが謳われています。

新しい時代に必要となる資質・能力

- ①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能
- ②未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力
- ③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性



そこで、本校では、変化の激しいこれからの時代を生きるために必要となる力を子どもたちが身につけることができるように、昨年度から新しい学習指導要領の趣旨に沿った上記の3つの観点に基づいた評価（観点別評価）による『まみち』（通知表）をお渡ししています。各教科の学習した内容ごとの評価（単元別評価）ではありませんので、評価がやや抽象的に感じ、分かりづらいと感じる部分があるかもしれませんが、『まみち』を改訂された趣旨をご理解いただき、子どもたちの健やかな成長のためにご活用くださいますよう、お願い申し上げます。なお、子どもたちの評価すべき特徴的な出来事等につきましては各担任が、これまで同様に所見欄に記載しております。

子どもたちが学校で学ぶことは、社会と切り離されたものではありません。社会の変化を見据えて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質・能力を踏まえて、今後も学校教育を進めてまいります。『まみち』もさらによりよいものへと改善を図ってまいります。

なお、上記の資質・能力にある『人間性』については評価することになじみません。こうした評価では示しきれない部分は、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについて積極的に見取り、子どもたちに伝えていくこととします。

（*）「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に1度、改訂しています。子どもたちの教科書や時間割は、これを基に作られています。

新しい『まみち』Q&A

Q.なぜ「まみち」が変わったのですか？

A. これからの時代がどんなに変化し予測困難になっても、子どもたちには、自分の生き方を見つけて、それを切り拓いていって欲しいと願います。そのためには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力が必要です。その力を育成するために学校教育として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の資質・能力をバランスよく育まなければなりません。その観点に沿ったそれぞれの子の学習の様子を『まみち』に表し、本人及びご家族にお伝えするためです。

Q.「知識・技能」って具体的にどんな力ですか？

A. 新出漢字を覚えたり、年号を暗記するなど断片的な知識を得たり、算数の計算方法だけ覚えたりするのはなく、その言葉や歴史的なことにはどういう背景やつながりがあるのか、算数ではなぜそのやり方で答えが出せるのか、などの理解が伴った知識や技能を意味しています。主にペーパーテストや実技のテストで評価することができますが、授業中など実際に知識や技能を用いる場面からも評価していきます。

Q.「思考・判断・表現」って具体的にどんな力ですか？

A. 基礎的な知識・技能をうまく活用しながら、さらにその先を自分なりに考え、情報の真偽などを判断し、考えたことをわかりやすく人に伝えるために表現する力を指します。ここで大事なのは、ただ単に知識・技能を持っているだけではなく、それらを使ってプラスアルファの自分なりの考えを出すことです。例えば、国語の文章を読んで、「あなたはどのように考えるのか」が重要になります。ペーパーテストだけでなく、文章やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動の様子からも評価します。

Q.「主体的に学習に取り組む態度」って具体的にどんな力ですか？

A. 粘り強く知識・技能を獲得しようとしているか、自ら進んで思考・判断・表現しようとしているか、見通しをもって学習に臨んでいるか、自分の学習を振り返り次につなげようとしているかなどを総合的に判断した力のことです。ノートやレポート等の記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童による自己評価や相互評価によって見取ることができます。

Q.一昨年度までの『まみち』と新しい今の『まみち』では、どこが違うのですか？

A. 一昨年度までの『まみち』は学習した内容ごと（単元別）に評価していました。そのため、何ができて何ができないのかのみに目が行きやすく、「知識・技能」だけを重く見てしまいがちでした。

【一昨年度までの『まみち』】～単元別評価～

算数	数量や図形などに関心をもち、粘り強く問題解決に取り組もうとする。
	小数と整数のしくみを理解し、10倍、 $1/10$ などの大きさの数を正しく求める。
	体積の考え方やその単位について理解し、直方体や立方体などの体積を求める。
	比例の意味を理解し、その関係を表に表す。
	小数×小数の計算の意味を理解し、正しく計算する。
	小数÷小数の計算の意味を理解し、正しく計算する。
合同な図形の性質などを理解し、合同な図形をかく。	



【新しい今の『まみち』】～観点別評価～

算数	知識・技能	数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	算数の問題について、多面的に考え、目的に合った方法で表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	数量や図形の学習に粘り強く取り組み、生活や学習に生かそうとしている。



*新しい『まみち』では、3つの観点をバランスよく育成することを意識して評価していきます。